

誰ひとり取り残さない社会をめざして

INDEX

社会福祉法人京都市社会福祉協議会 会長就任のご挨拶…	2
七尾市で災害ボランティア活動を支援 ……………	3
一人ひとりを認めあう地域社会へ ……………	4
「みどりの居場所」であたたかいつながりづくり ……………	6
デイサービスセンターでの誰もが集える居場所づくり ……………	7
京こどもいばしょフェス ……………	8
最期まで「わたしらしく」生きるために、 今から「心づもり」していますか? ……………	9



災害ボランティア
活動



誰もが集える
居場所づくり

一人ひとりを認めあう 地域社会へ



地域福祉活動の再興と 持続可能な組織経営に向けて

社会福祉法人
京都市社会福祉協議会
会長 たか や ひろ あき
高屋 宏章



このたび、京都市社会福祉協議会の会長に就任いたしました高屋宏章と申します。

志半ばで急逝された小石玖三主会長の後任として、皆様方からの御推挙を賜り、この大役をお引き受けすることとなりました。

人口減少社会を迎え、少子高齢化がますます進行するなか、コロナ禍による社会の変容も相まって、人と人とのつながりの希薄化、孤独・孤立や貧困等の問題の深刻化、甚大な被害をもたらす自然災害の増加など、地域社会が直面する課題はますます複雑化しています。

これらの課題に対し、「共に生きる福祉のまち『京都』」の実現を目指して様々な福祉事業や地域福祉活動を展開する本会への期待と役割は、大変大きなものだと感じています。

社会情勢など大変厳しい中ではありますが、前会長の御遺志をしっかりと受け継ぎ、コロナ禍で停滞した住民主体の地域福祉活動の再興、包括的な支援体制の整備に向けた相談支援や参加支援、生活困窮者への支援や災害対策の強化等に努め、共に生きる福祉のまちづくりの実現に向けて、より一層邁進していく所存です。

甚だ微力ではございますが、京都市とのパートナーシップをより強固なものとし、各区・学区社会福祉協議会の皆様や、地域福祉を推進する車の両輪である京都市民生児童委員連盟の皆様をはじめとする関係機関や団体・施設の皆様との連携・協働のもと、役職員が一体となって、市民の信頼と公益的な使命に応えて参りたいと考えておりますので、皆様方の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

京都市災害ボランティアセンターとして、 七尾市で災害ボランティア活動を支援



令和6年能登半島地震の被災地支援として、京都府災害ボランティアセンターと協働してボランティアを募集し、石川県七尾市内でボランティア活動を行いました。

3月から6月にボランティア募集をして、災害ボランティアバスを5回運行しました。延べ122名のボランティアが、被災された方の自宅の片付けなど活動しました。

また、災害ボランティアバスの運行に際して、京都府生活協同組合連合会さまから参加者へ軽食・飲み物の提供をいただきました。

参加者の声

参加者がチーム一丸となって、ボランティア活動ができた。はじめての人でも参加者同士で助け合って活動できるので、ぜひ参加してほしい!

自分の目で見たり、被災された方から直接お話を聞いたことで、今の被災地の様子がよくわかった。これからもできることを考えていきたい。

被災地のチカラになれたと実感できてうれしい! 今後も自分にできることを探して活動したい。

▶ 京都市災害ボランティアセンターは、京都市・京都市社会福祉協議会・きょうと NPO センターが共同で運営しています。平時は市民を対象に災害ボランティア活動の啓発や人材育成に取り組み、発災時にはボランティアの受入や活動調整を行います。

お問い合わせ先 京都市災害ボランティアセンター
電話：075-354-8728 FAX：075-354-8727



ホームページ



Facebook



kyoto
こころつながる
プロジェクト

つながるフェスに来てね

子どもも大人も楽しいワークショップがいっぱい! さまざまなボランティア団体等とつながれる! 「新しいことはじめたい」「ボランティアやってみたい」みなさんはつながるフェスへ!

- 日時 令和6年 10月 20日 (日) 11:00 ~ 15:00
- 場所 ゼスト御池 河原町広場 (地下鉄東西線「京都市役所前」直結)

お問い合わせ先 京都市福祉ボランティアセンター
電話：075-354-8735 FAX：075-354-8738



ホームページ



Instagram

一人ひとりを認めあう地域社会へ

～共に生きる、幸せな暮らし～

奥田 知志 さん（認定NPO法人抱樸(ほうぼく)理事長）

コロナ禍によって交流の機会が減少した今、孤立・困窮の課題はますます深刻さを増しています。どうすれば誰もが幸せに暮らせる社会を実現できるのか。今回の京都市社会福祉協議会、京都市民生児童委員連盟共催の地域福祉推進セミナーでは、生きづらさを抱える子ども・若者に焦点を当てて学びを深めました。

子ども・若者は、なぜ「助けて」が言えない？

講話の前半、親から虐待を受けて家を飛び出し、薬物依存に陥っていたところを保護された少女との事例を話された奥田さん。その少女は、壮絶な生い立ちからの「こいつは信用できるか」と他者を困らす行動や「どうでもいい命」と自傷を繰り返します。奥田さんは、少女と攻防を繰り返しながら、根気強く生活を共にします。やがて浮かんできたのは、奥田さんの支援に呼応して、生きる希望を見出そうとする少女の姿でした。来場者にとっては、同じ境遇にあるかもしれない子ども・若者への理解と、寄り添い続ける大切さをあらためて考える機会でした。

ここで一つの疑問が湧き上がります。苦しんでいる子どもたちはなぜ自分から「助けて」が言えないか？理由の一つは、どこに相談すればよいのかわからないこと。次に、自分が深刻な状況にあることに気づけないこと。

最後に、自分なんてどうでもいいと、あきらめてしまっていることがあげられます。いずれも当事者である子どもが、周囲から孤立してしまっていることと関係がありそうです。

ここで見逃せないデータがあります。世界各国の15歳を対象に行われた意識調査*によると、「孤独を感じることはあるか」の質問に対し「はい」と答えた割合が最も多かったのは日本。その数字は29.8%にも上りました。次位アイスランドのほぼ3倍と突出しています。

人生をあきらめない最後の砦

子ども・若者の孤立は、一刻も早く改善すべき課題です。しかし奥田さんは、その背景と問題点を指摘します。

「人に迷惑をかけないようにしなさいー」これは皆さんも幼い頃から何度も言い聞かされてきたのではないのでしょうか。いわゆる「自己責任」です。これも大切な考

講師の奥田 知志 さん
(認定NPO法人抱樸(ほうぼく)理事長)

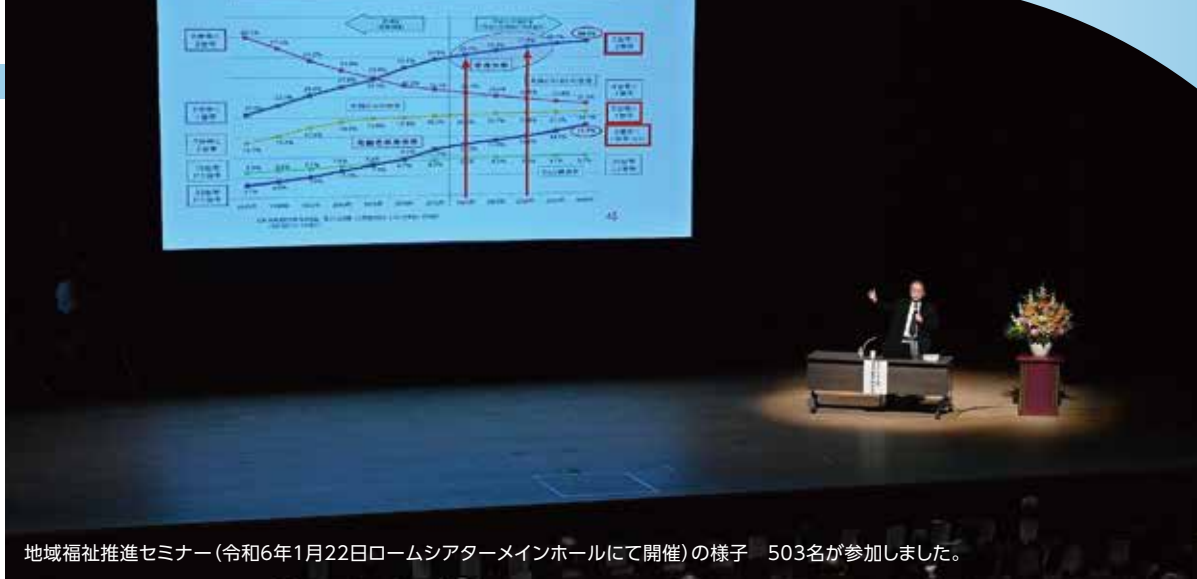


悲しみの連鎖を断ち切るために

抱樸子ども・家族まるごとプロジェクト

世の中には、生活困窮や不衛生な家庭の環境で暮らす子どもや家族が少なからずいます。単純に個人や世帯の責任と言い切れるものばかりではありません。

そこで認定NPO法人抱樸が取り組んでいるのが「抱樸子ども・家族まるごとプロジェクト」。子どもとその親に対して、楽しい思い出をつくるプログラムを提供するものです。例えば運動会の朝、お弁当を一緒に作り、お昼休みには一緒に食べます。こうしたことを繰り返して親は子どもへの接し方を知り、子どもは自身が受けた経験や愛情を次の世代へ引き継いでいくことを願い活動をされています。



地域福祉推進セミナー(令和6年1月22日ロームシアターメインホールにて開催)の様子 503名が参加しました。

え方ですが、本当に救いが必要な時にも「助けて」と言えなくなるのは問題です。

そこで奥田さんは、自身が理事長を務める認定NPO法人抱樸において「伴走型支援」に取り組んでおられます。約20年前から実施している支援であり、課題の解決と同じくらい「つながる」ことに重きをおくものです。

「ある人が自分の人生をあきらめた時、その人の人生をあきらめてくれない人がいること。それが最後の砦になると思っています。そのためには、つながりの数を増やす支援が重要です。伴走型支援は、専門家による数本の太いロープばかりではなく、身近な人も細い糸でもいから多数で支えるイメージです」

奥田さんは「伴走型支援士」という資格制度も設立。すでに1600名ほどが合格、活動中と話されました。

家族の機能を社会化する

「誰かが誰かを支援するまち」も大切ですが、「お互い様のまち」「助けられた人が助ける人になれるまち」を目指して活動を開始しているのが「希望のまちプロジェクト」です。認定NPO法人抱樸が活動の拠点としている北九州市を中心に展開しています。

「孤立は子ども・若者の問題にとどまりません。単身世帯の割合が急増する中、家族というシステムが機能を

失いつつあるからです。そんな家族の機能を社会化するのが目的です」

プロジェクトのイメージとしては、地域の互助会に近いと話す奥田さん。月500円の会費を払えば、どんな人でも入会可能。専門職によるケアとして、買い物同行支援や金銭管理支援、投棄管理支援が受けられます。年間行事としてバス旅行や新年会、誕生日会。卓球やカラオケなどのレクリエーションも毎週実施されます。なかでもユニークなのが、プロジェクトの仲間による看取りと葬儀です。

「いま社会問題となっているのが、単身高齢者の住まい探しです。ほとんどの大家さんが貸したくないと話しており、最期を引き受けてくれる人がいないというのが理由です。その点、このプロジェクトに入会していると、プロジェクトの仲間が家族同様に看取りを行い、葬儀にも参列。もちろん部屋の片づけまでしっかり行うので、本人も大家さんも安心です」

まさに地域社会が家族のように一体となれる試みです。温かな家族愛に包まれて、子どもから大人まで誰もが幸せに暮らせる社会づくりに、学ぶべき点はたくさんありそうです。

※経済協力開発機構(OECD)加盟25か国を対象として、2003年に行われた15歳の意識調査(アメリカは未回答)

ひとこと

私たちの暮らす地域は、困った時に「助けて」と言えたり、誰かに頼りにされ役割を果たせたりできる場になっているでしょうか。

「誰かにしてもらった経験を次の世代に返していく」そんな社会的な相続で地域を育み、今にあったコミュニティの再生が求められているように思います。“自分が大切にされ、生きているのが楽しいとみんなが実感できる場”を身近な所から増やし広げていきましょう。

「みどりの居場所」で あたたかいつながりづくり

参加支援部では、ひきこもり状態等があり、自分から社会とつながることに難しさを感じるご本人（以下、本人）の思いを大切にされた社会参加に向けた支援を行っています。

みどりの居場所とは？

本人達の社会参加と、ひきこもっている人への理解が地域の方々には広がることをめざして、令和4年度から菊浜学区社会福祉協議会と下京区社会福祉協議会の協力のもと、ひと・まち交流館京都を拠点に協働で花壇づくりを行っています。

“花壇づくり”では本人達が教わる側に、“交流会”では学区の方たちがゲームを教わる側にと、それぞれの得意を活かしお互いを理解しささえあう、あたたかいつながりが生まれています。

「みどりの居場所」を通じた交流は、本人達が力を発揮し自信を回復するきっかけとなっています。

…………… みどりの居場所ではこんなことをしています! ……………

土づくり編



①古い土をふるいにかける



②土に栄養を加える



③土を馴染ませ保管する

苗植え編



④植える苗を決める



⑤苗を植える



⑥完成

花を植えたプランターは、ひと・まち交流館 京都の玄関先を彩っています。

交流編



作業後は交流の場を設け、一緒にゲーム等を楽しんでいます。

参加者の声

花植えは一段、うまくなりました。今後は楽しみ。(学区Aさん)

自分の作ったゲーム(クロスワード)をみんなが解いてくれてよかった。(本人Dさん)

大人数でわいわいゲームができて楽しかった。(本人Fさん)

若い力でゲームで優勝しました!バンザイ!(学区Eさん)

花の向き、配置を考えるのが楽しかった。(本人Bさん)

きれいな入口になって皆さま楽しみにしておられると思います。(学区Cさん)

出水学区 ベビー&キッズ用品 交換会の開催



令和6年5月の日曜日に出水老人デイサービスセンターにて子どもの衣類やおもちゃの交換会が開催されました。当日は50組を超える参加があり、大盛況の一日になりました。

出水民生児童委員の皆様が主催され、出水住民福祉協議会、上京区社協、仁和地域包括支援センターの協力を得ながら、出水老人デイサービスセンターの駐車場を開放して開催しました。

家族連れや通りすがりの方々も立ち寄り、子ども服やおもちゃの交換だけでなく、センター内に設けた喫茶コーナーで一息つかれ、地域の皆様の交流の場となりました。

この交換会では、手ぶらの参加や必要なものの持ち帰りも大歓迎で、地域の皆様・プレママさんから子育てに関わるすべての方が集える居場所としています。

今後、10月にも開催を予定しており、誰もが楽しく集える地域の居場所として定着できればと思います。



下京老人デイサービスセンター 駐車場での移動販売開催

令和5年7月に下京区内の老舗スーパーが閉店し、地域住民にとって買物が困難になるという地域課題がありました。

区内の高齢者施設や地域包括支援センター、地域支え合い活動創出コーディネーターが令和6年3月に試験的に移動販売車を活用した買物支援を実施しました。下京デイの駐車場も移動販売車の停車地とし、買物に困っている方々の支援に協力しました。

当日は、実際に商品を見て、手に取って買物ができることから地域住民で賑わい、参加者からは「こういう催しがあれば助かる。」と喜びの声が聞かれました。

3月の試験実施を経て、6月からは定期便として移動販売車が来ることになりました。今後は顔なじみが増え、地域住民の憩いの場となることを期待し、買物支援だけでなく、誰もが集える居場所として継続していければと考えています。



メガネのお悩み何でもご相談ください

「手持ちのメガネがぼやけて見えにくい」、「パソコン、スマホを使うと目が疲れる」、「紫外線が心配」、「メガネがすぐずれてしまう」など、何でもご相談ください。様々な用途に合わせたレンズ・フレームをご提案いたします。

定番のセット商品も
あります!

————— メガネセット (レンズ付き) —————
近視 遠視 乱視 老視 **¥4,900**より

————— 両用メガネセット (レンズ付き) —————
遠近 中近 近々 **¥10,400**より

●営業時間 全店 10:00~19:00 [全店水曜日定休] f @ogiopticart

大宮通
北大路通
堀川通
P 専用P
北大路店
075-417-3154
堀川北大路西へ100m

大宮通
松屋町通
ライフ
中立売通
ハローワーク
中立売店
075-441-3571
大宮中立売西へ50m

丸太町通
JR内町駅
GS
太子道通
西大路通
P 専用P (21番)
円町店
075-803-2880
西大路太子道バス停前

大宮通
壬生川通
高辻通
松原中学校
大宮高辻店
075-803-1722
大宮高辻西へ100m

丸太町通
東大路通
川端通
二条通
御池通
東山二条店
075-762-1115
東山二条西へ100m

Optic art Ogi
オプティックアート オギ

※各種クレジットカードご利用頂けます。
※福祉眼鏡取扱

https://www.oa-ogi.jp

オプティックアート

検索



～ 出会いの数だけ、
未来が生まれる！～

みやこ 京 こどもいばしょ フェス

京都市内に約200ヵ所と大きく広がりをもせる
子どもの居場所（子ども食堂、学習支援、その
他活動）。そのような居場所が、誰でも参加でき
る身近な場であることを発信するとともに、市内
から集結する活動者をはじめ、応援したい市民や
団体、企業等の参加者同士が出会える機会とし
て、みんなで楽しめるフェスを開催します！

誰もが楽しめる企画が盛りだくさん！みなさま
のご来場、お待ちしております。

日時 令和6年 11月24日(日) 10:00～16:00

場所 京都産業会館ホール 全室

市営地下鉄烏丸線「四条駅」下車 / 阪急京都線「烏丸駅」下車
徒歩約2分「26番出口」よりB1階入口直結 京都経済センター 2階

食べ物ブース

子ども食堂のお弁当が
大集合! 企業からの出展も!



体験・遊びブース

子どもだけでも! 大人だけでも!
親子でも! 楽しめるブースを準備中。



ステージ



京都市子育て応援
公式アンバサダー

NHK おかあさんといっしょ
4代目身体表現のおねえさん
いとうまゆ氏の出演が決定!
みんなで一緒に踊りましょう。

♪ からだダンダン
♪ ぼよん行進曲等

シークレットブース

全世代が知っている有名キャラクターが
遊びに来てくれます。お楽しみに☆

その他

相談できるコーナーや、
展示・情報発信コーナーもあり!

ボランティア 大募集!!

学生も大歓迎!!

定員：20名
締切：9月27日(金)



応募フォーム

主催・共催 社会福祉法人京都市社会福祉協議会、京都市
協力 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
一般財団法人ポケモン・ウィズ・ユー財団

お問い合わせ先 京都市社会福祉協議会 地域支援部 電話：075-354-8732



「支援の輪」
ホームページ

社会福祉施設などで働く支援者の皆様へ
京都府からお知らせです。

ヤングケアラーとは…

- 家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者を指します。
- 京都府ヤングケアラー総合支援センターでは、支援者の皆様に研修講師やアドバイザー派遣を行っています。

研修講師派遣



アドバイザー派遣



ヤングケアラーの方、元ヤングケアラーの方、
家族や支援者の方、どなたでも相談できます。

京都府ヤングケアラー総合支援センター

TEL：075-662-2840

MAIL：ycarer@pref.kyoto.lg.jp



相談時間：月～土曜日 10:00～18:00 ※LINE相談は月～金曜日です
(祝日、12月29日～1月3日を除く)

ヤングケアラーと思われる子ども・若者を見かけたら
相談できる窓口があることを伝えてください。

LINE相談



オンラインコミュニティ
「いろはのなかまたち」



最期まで「わたしらしく」生きるために、 今から「心づもり」していますか？

老いと死は誰も避けることはできません。病気になったときに、介護が必要になったときに、そして、最期を迎えるその時まで「わたしらしく」生きるために、今から「心づもり」してみませんか。

1

知っておきたい！

「身元保証」ってなに？

突然入院しなければならなくなったり、施設に入所するときに、「身元保証人がいないと入れません」と言われたらどうしますか？ そんなときに備えられるように、お話を聞いてみませんか。

- 日時 会場開催 令和6年 9月26日(木) 14:00~16:00
動画配信 令和6年 11月1日(金)~令和7年 2月28日(金)

- 場所 会場開催 「ひと・まち交流館 京都」3階 第4・5会議室

- 講師 三上了資氏(かささぎ法律事務所 弁護士)

ホームページ <https://sukoyaka.hitomachi-kyoto.jp/mamoru/lecture>



2

連続講座

「人生の終い支度」第2回

「もしものときに、わたしが望む医療やケアはなんだろう?」「今からできることはなんだろう?」最期の時を考えるうえで欠かせない、人生会議(ACP)や、生活に寄り添い支える医療についてのお話を聞いてみませんか。

- 日時 会場開催 令和6年 12月3日(火) 10:30~16:00
動画配信 令和6年 12月26日(木)~令和7年 1月28日(火)

- 場所 会場開催 「ひと・まち交流館 京都」3階 第4・5会議室

- 講師 宇都宮 宏子氏(在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス 看護師)

松井 久典氏(京都第一赤十字病院 相談員)

茶谷 妙子氏(京都府看護協会 看護師)

土井 たかし氏(どいクリニック 理事長・院長)



ホームページ <https://sukoyaka.hitomachi-kyoto.jp/mamoru/jinsei>

御自宅や施設での暮らし方をテーマとした第1回も、同じ期日まで動画視聴できます。(事前申込要)

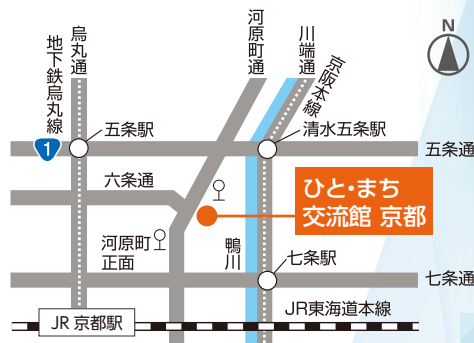
申込・お問い合わせ先 京都市長寿すこやかセンター

電話: 075-354-8741

FAX: 075-354-8742

メール sukoyaka.info@hitomachi-kyoto.jp

ホームページ <https://sukoyaka.hitomachi-kyoto.jp>



京都亀岡の 人間実践塾・フリースクール

不登校・行き渋り・育てにくさ
漠然とした不安をお持ちではありませんか？

一人ひとりのお子さんに対し、

「応用行動分析学」と「感覚統合療法」の

考え方を元に創り出した手法で論理的に、そして具体的に、根本的な要因に働きかけ、社会に出てうまくやっていくための土台作り「ちとせ」では取り組めます。

子どもが家から
出られない状態でも

個別のセッション
からでも

相談だけでも

療育プログラムだけでも

学校連携
出席認定実績あり

訪問支援だけでも

フリースクール助成あり
(現在は亀岡市在住者のみ)

一人一人に合ったプログラムを
ご提案いたします。ご相談ください。



もっと詳しい内容を
知りたい方はホームページを
ぜひご覧ください。



一般社団法人 育ちとつながりの家 ちとせ

〒621-0003 京都府亀岡市千歳町分下ノ川51番地 TEL: 0771-56-9018 (平日 10:00~17:00)
MAIL: info@chitose-kameoka.com URL: <https://www.chitose-kameoka.com>



児童館活用術

～虎の巻～

京都市の児童館は0才から18才までの児童とその保護者の方が対象の施設です。何も用事がなくてもフラッと寄っていただいても大丈夫。知っている人も、知らない人も、改めて児童館を満喫していただける活用法についてご紹介します！周りの人にも是非おすすめくださいませ。



児童館の活用法

- 1 朝、子どもと公園に行く予定だったのに雨…。そんな時は児童館があります！（もちろん、屋根、おもちゃ、絵本や児童書も完備!!!）
- 2 乳幼児・児童向けのイベントもたくさん開催中！詳しくは各児童館のHPやおたより等でご確認ください。※市内どの児童館もご利用できます。
- 3 育児のことでちょっとした話をしたい、聞いてほしい…。そんな時は児童館があります！児童館職員に気軽にお話をしてください。児童館と児童館職員の心はオープンでウェルカムです。もちろん、子育てに関する専門機関のご紹介もさせていただきます。パパ友、ママ友とも出会えます！
- 4 フードライブ活動等、幅広い取組を定期的に行っています。気軽にお越しください。

児童館の利用案内

開館日：日曜日・国民の祝日及び年末年始（12月29日から翌年1月3日）を除く毎日
開館時間：午前10時から午後6時30分



京都市の児童館一覧



「介護ロボットセミナー&展示会」～ロボットで変わる移乗のカタチ～

社会福祉研修・介護実習普及センターでは、専門職の方だけでなく市民の方にも介護ロボットのことを知っていただくために、令和6年1月23日（火）から2月6日（火）まで介護ロボット展示会を開催しました。

展示会初日には、企業の方にご協力いただき「様々な介護ロボットの役割」についてセミナーを実施しました。

また、特設ブースでは「移乗ロボット SASUKE」「介護アシストスーツ J-PAS fleairy」の2機種を展示し、ご来場の方に見て・触れて・体験いただく機会となりました。

今後とも介護の質の向上と携わる方の負担軽減を図るため、介護ロボットをより身近に感じていただける取組を進めてまいります。

本年11月頃に展示会などの開催を予定しています。多くの方のご来場をお待ちしております。



移乗ロボット SASUKE



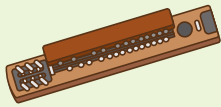
介護アシストスーツ J-PAS fleairy

あなたの知恵や力を
待っている人が
います!

知恵シルバーセンターに

団体登録しませんか?

地域のイベントやお祭りで
活躍してみませんか!



知恵や経験、技能などをボランティアとして
活かしてみたいシニア世代の団体さまを募集しています!
地域のデイサービスや児童館、地藏盆や敬老会などで
披露・交流しませんか?



知恵シルバーセンターとは?

誰かのために活躍したいシニア世代の団体と
人生経験豊かなシニアの力を借りたい地域の施設や団体を
マッチングするものです。
詳しくはこちらからHPをご覧ください。



知恵シルバーセンター
ホームページ



ひと・まち交流館 京都の ホームページがリニューアルしました。

館内のフロアマップや4センターの詳細、ひと・まち交流館
京都を利用する団体の検索など、知りたい情報へのアクセス
が簡単になりました。

<https://hitomachi-kyoto.jp>

会議室予約システムの運用がスタートしました。

インターネットから会議室利用の申請ができ、
より正確な空室状況を確認することができます。

利用登録を希望される団体は、
ひと・まち交流館 京都 管理部 までお問い合わせください。
電話：075-354-8711



福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします!

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRM 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険
ホームページ **www.srm-net.co.jp/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

あなたの想いを未来(あした)につなぐ

京都市社会福祉協議会への寄付のお願い



本会では、令和5年12月に京都銀行と「遺贈・寄付等への協力に関する協定」、令和6年2月に三井住友信託銀行と「遺贈寄付に関する協定」を締結しました。

これらの協定によって、本会に対する遺贈寄付(遺言によって、遺言者の遺産の一部又は全部を寄付すること)を希望される方に対する遺言作成等の必要な手続きを、京都銀行及び三井住友信託銀行の専門のスタッフが支援することができるようになりました。



このほか本会では、ご自宅に眠っているブランド品や貴金

属などを出張買取で寄付金に変えて支援することができる「買取大吉モノ募金」や、ホームページを通じたクレジットカードによる寄付等、様々な寄付メニューを揃えています。

本会では、地域住民及び福祉組織・関係者の協働により地域生活課題の解決に向き合い、誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる、「共に生きる福祉のまち『京都』」の実現を目指して、幅広い分野で取組を進めています。

京都市の地域福祉を一層充実させるため、寄付という形で私たちの活動を支えてください。

お問い合わせ先

京都市社会福祉協議会 総務部 電話：075-354-8731

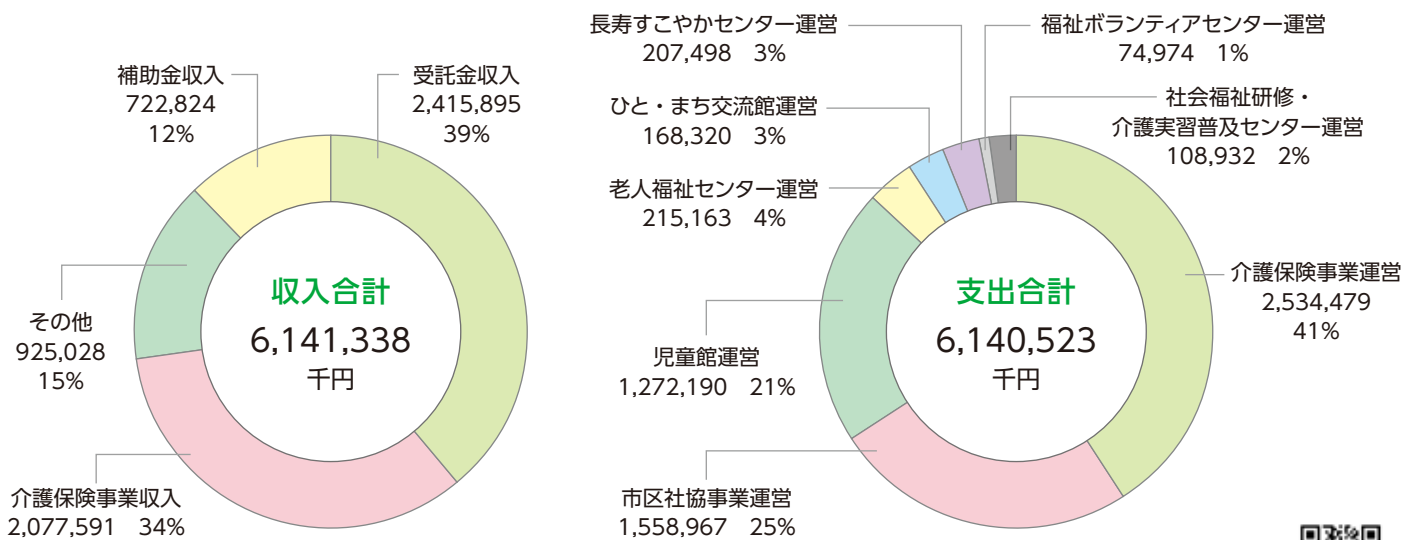
寄付ホームページ <https://www.syakyo-kyoto.net/guide/kifu/>

京都市社会福祉協議会
寄付ホームページ



令和5年度 決算報告

※収支差額は繰越。その他事業の詳しい内容や決算の詳細は、本会ホームページをご覧ください。(単位：千円)



令和5年度 事業報告については本会ホームページをご覧ください。▶



福祉のまちづくり 191号 2024年8月31日発行

発行/社会福祉法人 京都市社会福祉協議会

TEL. 075-354-8731 FAX. 075-354-8736

ホームページで京都市社協の活動を映像でご覧いただけます。
携帯電話でも右のQRコードから簡単アクセス!



京都市社協

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側)「ひと・まち交流館 京都」

【発行人】高屋宏章 【編集人】芳賀正昭 【編集協力】IG株式会社



京都市社会福祉協議会では、京都市における環境負荷の管理・低減の規格であるKESステップ2を認証取得し、環境負荷軽減に努めています。



この広報誌は一部共同募金の配分金で発行しています。

